

子どもたちと保護者と共に

日々子どもたちやお母さん、お父さんと心寄り添いながら、市内で30年以上続く父母会が運営する学童保育の支援員として働く、橋本幸治さんにお話を伺いました

学校と家庭以外のもう一つの居場所として、交流や経験を通じて多様性を認め、一人ひとりが安心できる場所であることを大切にしながら「豊かな経験が、豊かな身体と心を育む」という方針の元で様々な活動を行っています。

新型コロナウイルスは、我々の生活や仕事や学校の在り方を変え、これまで当たり前だったものを奪いました。学校も休校となりました。行き場のない子どもたちのために、学童保育は、朝から開所ということになり、3月からの約4か月間、学校に合わせて保育を行い、感染対策に追われる毎日となりました。しかし、この間、感染対策以上に大切にしていたのは、子どもたちの「安心」でした。当たり前だった生活が変わってしまうことは、子どもたちにとって大きなストレスであり、不安でもあります。そのため、指導員や保護者と話し合いながら、感染対策をしつつ、子どもの遊

びや生活、そして行事等に極力制限を設けず、できることを模索する日々が今も続いています。

これから先、“ウィズコロナ”や新しい“生活様式”という流れの中、忘れてはいけないことは、子どもたちから失われてしまう経験や体験の大切さです。触れることや感じることは、子ども時代には欠かすことのできない学びです。どんなにネットが普及し、AIが発展し、感染症が広がっても、人が人らしく生きていくために、大切なものは変わらないと思います。それらは、言葉で簡単に表せるものではありませんが、必ず、この子ども時代につながっていると思うのです。




相談窓口を案内します

DV相談+（内閣府）がスタートしました

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、生活不安やストレスから、DV等の増加・深刻化が懸念されるため、内閣府ではこれまでのDV相談を強化しました。ひたちなか市でも電話相談窓口を設けています。

ひとりで抱えるには重たいと思ったとき、つらくて耐えられないと感じたとき、話してみるだけでも心が軽くなるものです。そんな時、ご相談ください。匿名でも受け付けます。

女性のための相談窓口 029-274-3002（相談専用）
受付日 月曜日から金曜日（祝日・年末年始を除きます）
相談時間 9:00から12:00、13:00から16:30

DV相談体制の拡充		令和2年5月 内閣府男女共同参画局
【DV相談ナビダイヤル】 0570-0-55210	➡ 最寄りのDV相談支援センターに電話 ⇒ 電話相談・面談・同行支援・保護等	
DV相談+ <small>プラス</small>	4月20日開始	※新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛、休業等が行われる中、DVの増加・深刻化が懸念されるため、相談体制を拡充。
24時間電話相談 つなぐ はやく 0120-279-889	SNS相談 ※12時～22時 メール相談	同行支援 保護 緊急の宿泊提供
 soudanplus.jp		外国語相談にも対応 英、中、韓、スペイン、ポルトガル、タガログ、 タイ、ベトナム、インドネシア、ネパール WEB面談も実施

問合せ先
 男女共同参画センター
 笹野町2丁目8番2号
 TEL・FAX 354-0167

編集後記

ウェブ会議が当たり前となりました。仕事に、遠く離れた家族や友人と会うために、コロナ禍のもと一気に利用者は増え、確かに便利でありがたい。

それで気づいたのは自分の表情です。こんなに長時間自分や他人の顔をしっかりと眺めたのは初めてなのです。表情、顔色、しゃべり方のクセ、顔のゆがみまでありありと分かってしまふ。他人に映る自分を改めて意識しました。あわてて表情筋運動です。だって無表情って怖い。相手にも笑って欲しい。和やかな場を作りたい。皆さんは口角が上がっていますか。

(S・M)

ひたちなか市男女共同参画啓発紙

かがやく

第29号
 2020.9 発行
 編集/発行
 ハーモニーひたちなか
 ひたちなか市女性生活課

ハーモニーひたちなか

日々を楽しく過ごすために



▲親子で料理作り



▲お母さんの手づくりマスク



▲新聞紙で作ったテント

新型コロナウイルス感染拡大により、人との接触を避けソーシャルディスタンスをとることが必要とされるようになりました。勤務形態はテレワークなど在宅勤務が奨励され、学校も休校になり、自由に外出することも出来ないため親しい人たちと会えなくなり、家での生活が多くなりました。そのため、家庭での生活を充実させようと、おうち時間の楽しみ方としてさまざまな工夫をした取り組みが伝えられました。

市民の皆さんも、家での生活を充実させる方法を考え、親子で手作りをした玩具で遊んだり、家族で料理を作るなど、各家庭で日常を楽しく過ごした方もいらっしゃるようです。

家族で行うことで絆を深めた例など、毎日を心地よく過ごすことができた様子を紹介します。

支え合おう！ みんなでマスク！

地域の方々とのつながり

私たちに今できること、今だからできることをメンバー内で打ち合わせし、『支え合おう！みんながチャリティーマスク』を実施しました。ひたちなか市社会福祉協議会と共に、市役所や駅などにマスクの回収BOXを設置し、皆様のご協力をお願いしました。マスクの寄付先の児童福祉施設の子ども達が描いてくれた絵を、回収BOXの周りに展示しました。

地域の人達の支え合いで社会が成り立っていることを改めて実感することができました。

ひたちなか青年会議所

やっぱり布マスクが好き

新型コロナウイルスが流行り、マスク不足になりました。私は不織布のマスクを使用すると顔がムズ痒くなってしまいますので、綿100%の布マスクを作ることにしました。300枚を作り、施設や友だち・孫にも配りました。布のマスクの感触は捨て難く、いまだに縫い続けています。



マスク作りにはまってしまう

娘から4歳になる子どものマスクが買えないと言われ、子ども柄の布地、ゴムを探し出しました。県外の友だちからも「作って」の声がかり、大人用・子ども用たくさん作り、自粛中結構楽しい時間となりました。感謝、感謝の返事に更に嬉しくなり、夏物のマスクも作りました。



Stay home 期間にしたこと、気付いたこと

- ・夫の仕事は変わらないが、定時で帰るようになった。子どもたちがストレスでケンカが増えても、その緩衝材になってくれてありがたかった。
- ・自分のストレスはLINEを見たりすると和らいだ。発言はしなくても他の人の話を見ていると安心した。
- ・「出来ないことを嘆くよりも、今できることを見つけよう」と新聞記事に掲載されていることに納得しました。
- ・飲食店の方からの一言
密を防ぐために、作業を何人かに分けて行いました。

コロナ禍の日常生活



▲手作りマスクです。二重ガーゼでプリーツ式、ワイヤー入りです。温かさを感じます。



▲水風船で父子対戦



▲餃子できたよ



▲いろいろ考えて眠れないので、深夜にモビールを作りました。友だちがとても褒めてくれました。



▲自宅で父とBBQ

ハーモニーひたちなか総会

昨年度は、「日本女性会議2019さの」が台風のため中止になり、ハーモニーひたちなか交流研修事業が実施できませんでした。

令和2年3月から新型コロナウイルスの感染が拡大し、そのため総会を開催することができず書面表決となりました。5月に書面表決の結果、「令和元年度事業報告・収支決算報告・令和2年度事業計画案・予算案」が承認されました。

いまだ新型コロナウイルスの感染が収束しないなかではありますが、会員の皆様とともに相談しながら、今年度の事業を実行していきたいと思っております。

ハーモニーひたちなか会長

菅原 佳江

今年度予定事業

- ・ハーモニーフェスタ(ハーモニー写真展) ・会員研修会
- ・ハーモニーひたちなかフォーラム ・ハーモニーカフェ
- ・勝田マラソンボランティア 他

※新型コロナウイルスの感染状況により、予定が変更になることがあります。

ハーモニー写真展に参加しませんか

男女が家庭、地域、職場などで、性別にこだわることなくいきいきと活動する姿、男女共同参画をイメージする写真を募集しています。今年のテーマは『ステイホームの過ごし方』です。応募いただいた写真は「ふぁみりこらぼ」で11月に展示します。

- 募集内容 自作で未発表のもの
- 応募方法 郵送またはデータをメールで送信
- 応募締切 10月2日(金)
- 応募・問合せ 男女共同参画センター
Tel&Fax 029-354-0167
E-mail danjo282@juno.ocn.ne.jp